

各関係機関長 様

高知県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

平成23年度病害虫発生予察特殊報第3号を送付します。

---

平成23年度病害虫発生予察特殊報第3号

1. 病名 **ミョウガ軟腐病（仮称）**

2. 病原細菌 *Erwinia chrysanthemi*

3. 発生作物 ミョウガ

4. 発生経過

平成22年、高知県内の施設栽培ミョウガで、栽培期間中及び収穫後の花蕾が淡褐色～褐色に変色し、軟化して腐敗する障害が発生した。障害部には糸状菌が認められず、多量の細菌が認められたため、細菌による新たな病害である可能性が示唆された。農業技術センターで病原細菌の同定を行った結果、*Erwinia chrysanthemi*による病害であることが確認された。

5. 他県での発生

本病原細菌は、ネギ、ナスなど様々な作物に感染することが知られているが、ミョウガで確認されたのは初めてである。

6. 病徴

はじめ花蕾の一部が淡褐色～褐色に変色し、水浸状に軟化する。病勢の進展は速やかで、高温時は発症から3日程度で花蕾全体が腐敗する(図1, 2)。腐敗臭はほとんどない。

7. 伝染方法

本病原細菌は植物体の傷口から感染する。ミョウガ花蕾に傷口がない場合はほとんど発病しないと考えられる。発病適温は25～35℃であり、10℃以下では発病しない。

8. 防除対策

- (1) 銅剤は本病害に対して予防効果があると考えられる。
- (2) 腐敗した花蕾は伝染源となるため、発見後は直ちに除去し、圃場内および野外に放置しないよう注意して、適正に処分する。
- (3) 本病原細菌は接触伝染する可能性があるため、腐敗した花蕾の周辺部の管理は最後に行う等の工夫をし、伝染させないように注意する。

お問い合わせは、病害虫防除所(担当: 甲把 (がっぱ) TEL 088-863-1132)または環境農業推進課(担当: 朝比奈 TEL 088-821-4861)まで



図1:接種により再現された花蕾の腐敗(栽培中の花蕾へ接種) 図2:接種により再現された花蕾の腐敗(収穫後の花蕾へ接種)